

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：浅野瞳 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 特別な配慮を要する子どもの特徴や養育者を取り巻く現状について理解する。 2. ティーチーズトレーニングについて学び、子どもに伝わりやすい指示の出し方、褒め方について理解する。 3. 特別な配慮を要する子どもに向けた療育支援について学び、理解する。			
【授業の概要】 特別な配慮を要する子どもの特徴や養育者を取り巻く現状について講義形式で学ぶ。またティーチーズトレーニングについて学び、子どもの「行動」に焦点をあて、子どもに伝わりやすい指示の出し方や褒め方についてロールプレイ等を通して学び理解する。 療育支援についての学びでは、各自テーマを設定し療育ツール作成の計画を立てる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：支援方法についての学び① 第3回：支援方法についての学び② 第4回：支援方法についての学び③ 第5回：ロールプレイ 演習① 第6回：ロールプレイ 演習② 第7回：教員による話題提供 第8回：各自テーマの選定 第9回：調査・研究活動① 第10回：調査・研究活動② 第11回：調査・研究活動③ 第12回：発表準備① 第13回：発表準備② 第14回：発表 第15回：全体のまとめ		【授業時間外の学習】 1. 授業前後合わせて1時間程度の予習・復習等の自主学習を要する。 2. 保育実習などで、様々な子どもの観察を行うこと。「行動」に注目できるよう意識すること。 3. 積極的に施設見学やボランティア活動を行い、実際に子どもたちに関わる経験をすること。 4. 自分自身の特徴や課題についても意識し、自己理解を深めること。	

定期試験：なし	
【授業の方法】 各自テーマを設定し、調査・研究を進める。プレゼンテーション、ディスカッションを行う。他者のプレゼンテーションや教員のコメント等から自らの調査・研究を深める。	
【テキスト】 必要に応じて授業内でプリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 参考図書は授業内で指示する。	
【学生に対する評価】 ＊ルーブリックを活用し、総合的に評価する。 授業参画度（40％）、レポート等作成（30％）、研究発表（30％）。	
【履修上の注意】 ・学生自身が自己理解を深め、今後保育者として様々な子どもに関わる意識を高めること。 ・事前準備、事後のまとめを丁寧に行うこと。 ・積極的に調査・研究活動に取り組み、支援力の習得に心がけること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設等と連携した実践に近い授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：小川弥輪 担当形態：クラス分け
科目／系 列	／		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもにとっての音楽表現について考え、理解することができる。 2. 児童文化財と音楽の融合の意義について理解し、実践することができる。 3. 様々な音楽表現活動を経験し、保育者として必要な豊かな感性と表現力を身につけることができる。			
【授業の概要】 子どもにとっての音楽表現について理解し、子どもの音楽表現をより豊かなものにする児童文化財と音楽の融合についての研究と発表を行う。様々な音楽表現活動を経験し、保育者として必要な豊かな感性と表現力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：教員による話題提供「子どもにとっての音楽表現とは」 第3回：子どもと音楽表現 研究活動① 第4回：子どもと音楽表現 研究活動② 第5回：教員による話題提供「児童文化財と音楽の融合について」 第6回：児童文化財と音楽の融合 研究活動① 第7回：児童文化財と音楽の融合 研究活動② 第8回：児童文化財と音楽の融合 研究発表 第9回：児童文化財と音楽の融合 研究活動③ 第10回：児童文化財と音楽の融合 研究活動④ 第11回：児童文化財と音楽の融合 研究発表 第12回：ICTを活用した音楽表現活動① 第13回：ICTを活用した音楽表現活動② 第14回：ICTを活用した音楽表現活動 研究発表 第15回：まとめと今後への課題発見 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 (授業前後合わせて1時間程度の自主学習を要する) ・教材研究、演奏練習 ・教材研究、演奏練習 ・研究発表の振り返り ・教材研究、演奏練習 ・研究発表の振り返り ・音楽制作、演奏練習 ・研究発表の振り返り ・まとめと自己課題発見	

【授業の方法】 教員から話題提供を行い、授業を展開していく。そして、学生を中心としたディスカッションにより、テーマを設定し研究を進める。研究活動や発表の中でそれぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度・音楽活動に対する練習と発表に取り組む姿勢(40%)、レポート(20%)、発表(40%)、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 音楽活動に対し興味・関心をもち、各自目標を設定し授業に取り組む。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：片口桂 担当形態：クラス分け
科 目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもの最善の利益を考慮し、倫理観、人間性及び保育士の職務及び責任が理解できる。 2. 乳幼児期の発達の特徴を理解し、実情に応じた柔軟で応答的な環境の必要性が理解できる。 3. 体験的学習を通し、自己に向き合い、自ら必要な課題を明確に捉えることができる。			
【授業の概要】 乳幼児教育・保育現場において現在求められている保育に焦点を当て、学生の主体的意識を高め、授業を展開していく。子どもの活動において注目されている「主体的」「探求心」「五感を生かし感性を育む」などを授業に取り入れ学生自身がその必要性を体験する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：保育所保育指針の基礎を学ぶ 第2回：保育者としての基本的な専門知識を理解しあう 第3回：保育者としてクラス運営についてまとめ発表しあう 1 第4回：保育者としてクラス運営についてまとめ発表しあう 2 第5回：保育者の担う保育に必要な技能を習得する 第6回：保育者に必要な技能のひとつである製作実践を行う 1 第7回：保育者に必要な技能のひとつである製作実践を行う 2 第8回：製作実践の発表を行い、学び合う 第9回：実習を通して生まれた疑問・課題を発表しあい、課題を明確にする 第10回：保育者として求められる技能や知識をグループでまとめる 第11回：自身の得意な保育分野の研究発表を準備する 第12回：研究発表 1 第13回：研究発表 2 第14回：保育実践の評価と内省を行い、学び合う。 第15回：「子どもの主体性」を育てる保育者として望まれる知識・		【授業時間外の学習】 1. 2. 保育所保育指針熟読 60分 3. 4. クラス運営下調べ 60分 発表準備 30分 5. 6. 7. 技能・制作の準備各 90分 8. 発表準備 60分 9. 発表のための実習まとめ 60分 10. 保育者に求められる専門性をまとめる 60分 11. 12. 13. 得意分野の発表準備 60分 14. 保育計画の評価と今後の課題 60分 15. 保育者として望まれる学びと実践・保育活動への取り組みについてまとめる 90分 まとめて提出	

実践力についてグループで話し合う	
定期試験：なし	
【授業の方法】 グループワークや体験的学習により現場で即戦力となる保育者としての専門的視点を育む。授業後に行う振り返りや教員からのフィードバックをおこなう。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度・ルーブリック評価（40％）、研究課題作成（30％）、発表（30％）。	
【履修上の注意】 予習・復習を必ず行い毎回の授業に臨むこと。周囲とコミュニケーション取り、活発に発言し、疑問があれば適宜教員に質問し、次回に持ちこさないようにすること。	
実務経験の有無：有	実務経験：保育園・児童発達支援事業所勤務
【実務経験を生かした教育内容】 保育園、児童発達支援事業所での保育の経験を活かし、学生自身が主体的に活動を展開し、保育現場において即戦力となるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江 担当形態：クラス分け
科 目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な専門的知識及び技術、深い教養、総合的な判断力、倫理観等を修得することができる。 2. 保育に関する現代の課題・現場を分析し、それらの対応として、保育者、保育の現場、地域社会に求められることは何か、多様な視点から考察することができる。 3. 自己の課題を明確にし、保育実践に際して必要な基礎的な資質・能力を定着させることができる。			
【授業の概要】 本授業では、子どもの活動や発達を予測し、保育に必要な専門的知識及び技術、教養、総合的な判断力、倫理観等を修得する。保育者に求められることは何か、考察し、保育実践に必要な基礎的な資質・能力を定着していく。また、教材や遊びなどの児童文化財を考えて制作し、演じ方などを研究していく中で、保育現場で活用出来る教材の制作や保育技術を考察する。そして、保育現場で実際に活かせる制作物や技術を習得し、子どもへの援助をするには、どのような方法があるかを学んでいく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション ゼミナールⅠ運営について 第2回：話題提供① 各自テーマについて考察 保育者として必要な専門知識を考える 第3回：各自テーマについて調査・研究 第4回：各自テーマについて調査・研究 第5回：研究発表・意見交換 第6回：話題提供② 各自テーマについて考察 第7回：各自テーマについて調査・研究・制作 第8回：各自テーマについて調査・研究・制作 第9回：研究発表・意見交換 第10回：研究発表・他のゼミとの交流		【授業時間外の学習】 ・保育者として必要な専門知識について予習する（1～2時間程度）。 ・研究活動の多くは、授業時間外の学習や活動である。そのため日頃から研究し、計画的に取り組むこと（予習、復習に1～2時間程度の時間）。 ・実習や保育者になった時のことを意識しながら、教材研究を行い、アイディアを集めておく。 ・幼稚園・保育所実習に向けて準備や制作などを進める。	

第11回：話題提供③ 各自テーマについて考察 第12回：各自テーマについて調査・研究・制作 第13回：各自テーマについて調査・研究・制作・発表準備 第14回：授業内発表会 第15回：まとめと今後の課題の明確化 定期試験：なし	・授業内でロールプレイや成果の発表を行うため、発表においては身近な人などに模擬演習をしておく（1～2時間程度）。
【授業の方法】 保育者として必要な専門知識や技術を確かなものにするためのテーマについて、グループ討論やロールプレイング等を交え研究活動を進める。教員からの話題提供や自己課題を把握する中で、各自調べ学習を行い、研究したものを発表することにより、実践力を高める。制作過程において改善点を伝え成果発表後に実践力向上に繋がるフィードバックを行う。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 各自必要な本について案内する。	
【学生に対する評価】 ルーブリック評価・研究に取り組む参画度（40％）、制作物（30％）、成果発表（30％）を総合的に評価する。	
【履修上の注意】 研究に必要な事前の予習・準備を行い臨むこと。 保育現場を意識し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士
【実務経験を生かした教育内容】 保育者としての経験を活かし、保育現場に必要な知識や技術の修得ができるような内容を行うことで、保育者として必要となる力を身に付けられること見据えた授業を行う。	

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択（ / / ）	
授業科目名：ゼミナールⅠ					単位数：1単位 （半期）演習	担当教員名：金子智栄子	
英語表記：SeminarⅠ							
ナンバリング：2331					担当形態：クラス分け		
科目／系列			／				
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目			／				
【授業の到達目標及びテーマ】							
1. 乳幼児をもつ養育者の心情を学び、支援の必要性を理解する。							
2. 乳幼児対応や相談支援の基本となる好ましい雰囲気や感受性に気づく。							
3. アクティブ・ラーニングにより課題を追求していくことで、保育者として豊かな感受性を培い、被支援者に対してどのように接したらより良い印象を与えることができるかを理解する。							
【授業の概要】							
保育者は相談を受ける者として、自己の特徴を理解していることは重要である。まずは簡単な心理テスト（エクササイズ）を行い、自分を知る機会とする。箱庭も実施する予定である。さらに印象形成や感受性トレーニングを通して、乳幼児対応や保護者支援の基礎となる良好な雰囲気を身につけ、相談支援においても感受性豊かな親身な関りができるようにする。また、ゼミナールⅠでは独自の研究テーマを設定し、ゼミナールⅡでの探求活動に備える。							
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性	
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○	
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						○	
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【授業計画】					【授業時間外の学習】		
第1回：オリエンテーション					授業時間外で調査を行うこともあり、課題意識を持って、日頃から課題に取り組む姿勢を大切にする。 （授業毎に2時間程度）		
第2回：乳幼児をもつ母親の心情を理解する：文化人類学の視点から							
第3回：自己分析と印象形成①							
印象ゲームを通しての自己理解や他者理解							
第4回：自己分析と印象形成②笑顔やしぐさによる印象の違い							
第5回：自己分析と印象形成③髪の色、長さによる印象の違い							
第6回：自己分析と印象形成④							
ミニとロングのスカート丈による印象の違い							
第7回：自己分析と印象形成⑤嘘を見抜く、嘘と判断する理由					授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。		
第8回：1回～8回のまとめ：保育者として資質と印象形成							
研究テーマについての中間報告							
第9回：感受性トレーニング①服装と体感							
第10回：感受性トレーニング②舞踊の姿勢による体感							
第11回：感受性トレーニング③舞踊の基本動作と体感							

第12回：感受性トレーニング④扇子の持ち方と体感 第13回：感受性トレーニング⑤「吉野山」の曲との体感 第14回：感受性トレーニング⑥「吉野山」の曲との体感 第15回：全体のまとめ 印象形成と感受性トレーニングの成果の確認 研究テーマと研究方法の発表 定期試験：なし	
【授業の方法】 演習、発表、文献研究、アクティブ・ラーニング（プレゼンテーション・ディスカッション）。小レポートなどを基に討議し、講評する。	
【テキスト】 なし	
【参考書・参考資料等】 授業において適宜プリント資料を配布する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（20%）、レポート（10%）、中間発表（20%）、研究発表（50%）、リアクション・ペーパー（「まとめと振り返り」用紙）からルーブリック評価を実施。	
【履修上の注意】 ・課題意識を持って、自分から積極的に調査を行う。 ・浴衣持参が望ましい。	
実務経験の有無：有	実務経験：スクールカウンセラー、臨床心理士、 日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー
【実務経験を生かした教育内容】 保育者や保護者への相談経験を活かし、印象形成や感受性の重要性について考えさせる授業を展開する。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：金美珍 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもの遊びや運動の重要性を理解できる。 2. 子どもたちが心と身体をイキイキさせながら遊びや運動を行うために保育者はどのように支援すべきかを考えることができる。 3. 運動遊びのプログラムを作成し、模擬保育と振り返りを通して、子どもたちへの運動遊びの支援方法を身につけることができる。			
【授業の概要】 現代の子どもは身体を使った遊びや運動をする機会が減っている。その結果、子どもの心と身体に様々な影響を与えている。そこで本授業では、子どもの運動や遊びに焦点を当て、社会的背景を視野に入れた遊びの変遷や、その影響について考察するとともに、子どもたちの遊びへの支援方法を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：現代社会における子どもの身体と遊び① 第3回：現代社会における子どもの身体と遊び② 第4回：現代社会における子どもの身体と遊び③ 第5回：身体を使った遊びの指導案作成① 第6回：身体を使った遊びの指導案作成② 第7回：身体を使った遊びの指導案作成③ 第8回：発表準備 第9回：成果発表① 第10回：成果発表② 第11回：成果発表の振り返り 第12回：子どものスポーツ① 第13回：子どものスポーツ② 第14回：子どものスポーツ③		【授業時間外の学習】 授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。 ・ 子どもの運動遊びについて、図書館などを利用して、授業準備や調べ学習を行うこと ・ 指導案作成の際、指導上の留意点及び支援が具体的に記述できるように工夫しておくこと。 ・ 運動遊びの指導を行う際、ルールの説明など、上手く伝えられるように説明の仕方を事前に練習しておくこと。	

第15回：領域「健康」をめぐる課題と保育実践まとめ	
定期試験：なし	
【授業の方法】 演習、ディスカッション、グループワーク作業・発表。発表に対しフィードバックのコメントをする。	
【テキスト】 特に指定しない。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 指導案発表（40%）、授業への取り組み・討論への貢献度（30%）、レポート（30%）。 ルーブリック評価表に基づいて評価する。	
【履修上の注意】 ・子どもの身体や遊び、そして現代社会における諸問題について関心を持ち、自主的に授業に臨むこと。 ・必ず大学指定のジャージと運動シューズで出席すること。 ・積極的な態度で演習に取り組むこと。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：瀬戸奏 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 音楽が子どもの心身に与える影響・効果を理解できる。 2. 保育者として、場面に合った音楽の活用方法を選択し実践することができる。 3. 自身の考えを持ち、他者の前で自由に表現することができる。			
【授業の概要】 歌う、演奏するといった音楽表現だけに留まらず、保育現場における様々な活動と音楽を組み合わせることで「音楽の活用方法の可能性」を研究し、発表を行う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供「保育における音楽の活用法」 第3回：音楽に合わせた自己紹介の方法① 第4回：音楽に合わせた自己紹介の方法② 第5回：手作り楽器を用いた音楽活動① 第6回：手作り楽器を用いた音楽活動② 第7回：音楽と楽しむ紙芝居・絵本作品① 第8回：音楽と楽しむ紙芝居・絵本作品② 第10回：音楽と楽しむ紙芝居・絵本作品③ 第11回：リトミック① 第12回：リトミック② 第13回：リトミック③ 第14回：研究発表会－企画、練習 第15回：研究発表会－発表、まとめと今後への課題発見 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 (授業前後合わせて1時間程度の自主学習を要する) ・自己紹介の練習 ・楽器の仕組みを調べる ・楽器づくりの材料探し、制作 ・題材となる紙芝居、絵本を探す ・朗読、作品と関連する曲の練習 ・リトミックについて本やインターネットで調べる ・リトミック実践に向けての練習 ・発表会に向けての企画 ・発表会に向けての練習 ・発表会の振り返り	
【授業の方法】 教員から話題提供を行い展開していく。そして、学生が中心のディスカッションを通して研究を行う。テーマごとに課題を提出させ、教員からのコメントを入れてフィードバックする。			

【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業への参画度・演奏に対しての練習と発表に取り組む姿勢（50%）、研究発表（30%）、課題プリント（20%）。 ※ルーブリック評価表を学生が確認できるように開示し、それに基づいて評価を行う。	
【履修上の注意】 音楽活動に対し興味・関心をもち、各自目標を設定し授業に取り組む。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：高橋努 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 児童虐待の現状や対応策等について理解し、実践できる。 2. 「オレンジリボン運動」の啓発等に関する研究や活動を行うことで、将来、施設保育士として勤務するために必要な技術と理論を身につけることができる。 3. 支援計画・記録・評価の方法や内容について理解し、具体的に表現できる。			
【授業の概要】 保育実習等を通じた自らの体験をもとに、保育者として必要な専門的知識、技術、教養、判断力、倫理観等を習得する。保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：学習の進め方について、研究テーマ・研究計画書の作成 第2回：調査・研究活動（児童福祉施設について）（1） 第3回：調査・研究活動（児童福祉施設について）（2） 第4回：調査・研究活動（他大学の活動について） 第5回：調査・研究活動（過去のオレンジリボン運動について） 第6回：調査・研究活動（論文等の検索） 第7回：中間報告発表会 第8回：調査・研究活動（子ども食堂の現状について）（1） 第9回：調査・研究活動（子ども食堂の現状について）（2） 第10回：調査・研究活動（地域の子どもの食堂について） 第11回：調査・研究活動（子ども食堂の課題について） 第12回：調査・研究活動（論文等の検索）、アンケート調査準備 第13回：アンケート調査準備 第14回：まとめ（ポスター発表準備）（1） 第15回：まとめ（ポスター発表準備）（2） 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 授業前後に、あわせて1時間程度の自己学習を要する。 1. 児童虐待防止に関する情報を集める。（2時間） 2. 児童虐待やオレンジリボン運動の情報を集め、その対応方法等について理解を深める。（2時間） 3. 文献資料等を参考に、児童虐待防止の歴史的背景やオレンジリボン運動・子ども食堂等についても学習をする。（2時間） すべてにおいて調べ学習が必須であり、図書館などを活用し率先して学習すること。	

【授業の方法】 演習形式で行う。調べ学習を中心に、調査した資料等のディベート等を行う。調査・研究を進める中でそれぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 授業内で必要な書籍を紹介していく。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜プリント等配布する（過去のオレンジリボン活動等の報告書等）。	
【学生に対する評価】 調査・研究活動結果のプレゼンテーション（50%）、レポート課題（50%）。 ＊評価には、ループリック評価を活用する。	
【履修上の注意】 ・調査・研究が中心となる。図書館やインターネット等の活用と必要な資料の取捨選択ができるようになることを目標とする。 ・学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設勤務（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設等と連携した実践に近い授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：塚越亜希子 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育者として必要な専門知識及び技能を総合的に身につけることができる。 2. 実習等での体験をもとに保育における現代的な課題について理解し、課題解決のために求められることを広い視野で考察することができる。 3. 保育者としての自己課題を明確にし、子どもの視点で具体的な保育方法を考え、実践することができる。			
【授業の概要】 実習等の体験を通して得た知見から自己課題を明確にし、自らの強みを生かした保育実践ができるよう、制作・発表等を通して保育技術の確かな向上を目指す。また、他者との関わりを通して保育における協働について体験的に学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供①保育者として必要な専門知識及び技能について 第3回：話題提供②環境を通じた保育について 第4回：これまでの学びの振り返りと自己課題の明確化 第5回：保育方法の調査と研究活動① 第6回：保育方法の調査と研究活動② 第7回：保育方法の調査と研究活動③ 第8回：研究成果の中間発表 第9回：話題提供③子どもを取り巻く現代的課題について 第10回：課題解決に向けた保育方法の考察 第11回：考察内容の具体化と研究活動① 第12回：考察内容の具体化と研究活動② 第13回：考察内容の具体化と研究活動③ 第14回：研究発表とディスカッション 第15回：全体のまとめ		【授業時間外の学習】 授業前後に、あわせて1時間程度の自己学習を要する。 1. 保育技術を考える (40分) 2. 保育技術の実践準備 (90分) 3. 保育技術発表の準備 (90分) 4. 保育技術の発表準備 (90分) 5. 保育者に求められるものについての考察 (40分) 6. 実習を踏まえた自らの課題の追求と発表準備 (90分) 7. 実習を踏まえた自己課題とその解決について発表準備 (60分) 8. 求められる保育考察 (40分) 9. 研究発表計画 (90分) 10. 研究発表準備 (90分) 11. 保育者としての知識と実践力についてまとめる (90分)	

定期試験：なし	
【授業の方法】 これまでの学びや実習等の振り返りから自己課題を明確にし、各自テーマを設定した上で調査・研究を進める。演習、制作、実践、発表等それぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度等（40％）、制作物（40％）、実践発表（20％）、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 事前の準備、事後のまとめをしっかりと行い、積極的に調査・研究することで自らの知識と技術の向上をめざすこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭
【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園、公立幼稚園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、保育者として求められる知識や技術、心得等について具体的に講じ、保育を展開していくための方法やポイントを実践的に身にけられるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：眞柄絵里 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもの遊びや生活の中の音楽や音楽的表現を見つける視点を持つことができる。 2. これまでの学びを基に自らの保育観を持ち、その場の子どもの発達や姿を捉え、適切と考えられる援助や関わりができる。 3. 実習等での体験をもとに自らの課題を明確にし、知識を深め具合的に考察し、保育に反映することができる。			
【授業の概要】 子どもの遊びや生活における音楽や音楽的表現に着目し、研究・制作・発表等を通して、自ら考え子どもたちに関わるのできるよう学びを深める。また、自らの保育観を持ち、協働する保育の場において、表現する大切さも学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回：話題提供①子どもの遊びと生活における音楽 第3回：話題提供②言葉のリズムについて 第4回：研究方法と各自のテーマの選定 第5回：調査・研究・実践活動① 第6回：調査・研究・実践活動② 第7回：調査・研究・実践活動③ 第8回：研究成果の中間発表 第9回：話題提供③子どもの音楽表現の援助について 第10回：調査・研究・実践活動④ 第11回：調査・研究・実践活動⑤ 第12回：調査・研究・実践活動⑥ 第13回：発表準備 第14回：研究発表とディスカッション 第15回：全体のまとめ		【授業時間外の学習】 授業前後に、あわせて1時間程度の予習・復習含めた自己学習を要する。 ・各自の研究テーマについて図書館、インターネットなどを利用しながら情報収集をする。 ・子どもの音楽的表現について考察し、自らの考えを持つ。 ・自分の考えを伝える工夫をすること。(視覚的理解、言葉の選び方、ストーリー性など) ・研究発表の計画、準備。	

定期試験：なし	
【授業の方法】 これまでの学びや実習の経験等を基に各自テーマを設定した上で調査・研究を進める。グループワーク、ディスカッション・プレゼンテーション等それぞれの課題に対しコメントする。	
【テキスト】 必要に応じ適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度等（40％）、レポート・制作（30％）、研究発表（30％）、ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 毎週の課題にしっかりと取り組み、次回のゼミ内で発表できるよう、事前の準備、事後のまとめを確実に行うこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭・元保育士
【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園および公立保育園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、具体的な子どもの姿や保育者の関わりなどをわかりやすく伝え、実践に活かせる保育技術を身につけられるよう授業を行う。	

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択 (/ /)
授業科目名：ゼミナールⅠ 英語表記：SeminarⅠ ナンバリング：2331		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：山田耕平 担当形態：クラス分け
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育・教育現場の現状と課題について理解し、研究テーマを設定することができる。 2. テーマに沿って、主体的に研究を行い、課題を追求していくことができる。 3. 困っている幼児・保護者へのかかわり方や相談支援について理解できる。			
【授業の概要】 困っている幼児・保護者の実態とかかわり方・相談支援の方法等について理解し、設定したテーマに沿った調査研究をし、研究発表を行う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・アイスブレイク 第2回：話題提供 自分自身が健康であるために① 第3回：話題提供 自分自身が健康であるために② 第4回：話題提供 自分自身が健康であるために③ 第5回：話題提供 保護者とかかわり方① 第6回：話題提供 保護者とかかわり方② 第7回：話題提供 保護者とかかわり方③ 第8回：話題提供 不適切保育を防ぐには① 第9回：話題提供 不適切保育を防ぐには② 第10回：演習：困っている子どもについて調査し、まとめる① 第11回：演習：困っている子どもについて調査し、まとめる② 第12回：演習：困っている子どもについて調査し、まとめる③ 第13回：演習：困っている子どもについて調査し、まとめる④ 第14回：演習：調査結果の発表 第15回：全体のまとめ 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 研究活動は、授業時間外の調査研究が大半を占めるので、課題意識を持って、日頃から研究に取り組む姿勢を大切に。 (授業毎に2時間程度) 受講にあたっては、自分の意見を言葉にして表現する技能が求められる。自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。 保育・教育現場への見学やボランティア参加などにより、困っている幼児・保護者の実態についての理解を深めておくことが望ましい。 (日数は適宜)	

【授業の方法】 演習、発表、文献研究、ディスカッション。授業感想や質問に対しては随時フィードバックを行う。	
【テキスト】 なし	
【参考書・参考資料等】 授業において適宜プリント資料を配布する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（50％）、授業内課題・研究発表（50％）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 課題意識を持って、自分から積極的に調査研究を行う。	
実務経験の有無：有	実務経験：臨床心理士・公認心理師・精神科クリニック・生活困窮者支援 ・学生相談・幼稚園巡回相談 等
【実務経験を生かした教育内容】 切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、実践的な知識を含む授業を行う。	